

(特集：シンポジウム1・第26回年次学術集会より)

序文；特集「ATL最前線～現状と最新の治療～」

南 惣一郎

ATL up to date -current and new treatment-

Souichirou Minami

Summary Although 35 years have passed since the discovery of HTLV-1 as the cause of ATL, no effective treatment of ATL has been developed. We do not know how to prevent HTLV-1 carriers from developing ATL neither. To circumvent this problem, new treatments have been developed by 3 Japanese researchers.

Key words: ATL , HTLV- I , the latest treatment of ATL

成人T細胞白血病（ATL）がHTLV-I感染症によって引き起こされることが発見されて既に35年の時が流れたが、いまだに根本的なATL治療法、HTLV-1の感染制御法やキャリアの発症予防の方法は確立されていない。この状況の中で、治療と研究に取り組まれている3名の日本を代表するATL研究者の先生方に、進歩を遂げつつあるATLの最新の治療について講演していただいた。

はじめに、1.「ATLウイルス（HTLV-I）の感染予防およびキャリアの発症予防へ向けた抗体医薬研究」と題して、琉球大学大学院医学研究科免疫学講座教授の田中勇悦先生に、抗体によるHTLV-I制御法の開発について、HTLV-I感染制御ワクチン研究と、IL-2受容体（CD25）に対する単クローン抗体のヒト化による新規治療薬の最新研究について講演していただいた。

2.「ATLに対する移植以外の治療の最前線」と題して、公益財団法人慈愛会今村病院分院血液内科の宇都宮興先生に、ATLの臨床病型別に移植以外の治療法として最新の分子標的療法や免疫療法を中心に講演していただいた。最後に3.「ATLに対する造血細胞移植の最前線」と題して、琉球大学医学部保健学科血液免疫検査分野教授の福島卓也先生に、骨髓破壊的同種移植（MAC）と骨髓非破壊的同種移植（RIST）に関して、対象病型と適応について、また治療成績比較を紹介いただき、現在進行中のJCOGでの第II相臨床試験について講演していただいた。